



# オアシス

文責：学長  
桑原雅次

出雲芸術アカデミーだより 2025年9月4日発行 第83号

9月に入りましたが、秋の気配はまだ遠くに感じるこの頃です。気候も異常ですが動物が人間に与える影響も異常だとか…。代表的な事象はクマの被害が頻繁に報道されています。ところが人間にとって一番の強敵は「蚊」なのだそうです。多くの感染症が蚊によって媒介され、毎年、何十万もの世界の人命が失われているとのこと。私たちの身近にも沢山存在する蚊…。甘く見ないで対策を怠らないことが人類(?)の大きな課題と言えそうです。

## 校外学習で中学生が来訪！

8月末に斐川西中の1年生が校外学習で本アカデミーを来訪されました。校外学習にあたって、出雲市の特色ある取り組みをされている事業所をグループに分かれ、それぞれ学ばれたことを整理され、プレゼンテーションを行うというものでした。

その1グループが、本アカデミーに注目され、この度来訪していただきました。その他の事業所へは、「シジミ漁」「出雲大社神門通り」「農園体験」等へ訪問されたと聞きました。

15名の生徒さんの来訪を受け、生徒代表者の司会進行で本アカデミーの設立理由や広報「オアシス」の発刊理由、講座内容及び在籍者数などの質問を受けました。

まず、設立理由については、本アカデミーが開設20周年であることに触れながら、戦後まもなく合唱や吹奏楽で発展してきた「音楽のまち出雲」をさらに音楽の幅を広げようと壮大な構想の下に設立されたことをパワーポイントを使用しながら説明しました。

その壮大な構想とは、時の出雲市長がニューヨーク在住時に体験されたことが基になっていると聞き及んでいます。「ニューヨークフィルハーモニック」「メトロポリタン歌劇場」「ジュリアード音楽院」の三位一体の構想です。都市に「演奏団体」「ホール」「育成団体」があって初めて機能的で持続可能な取り組みがなされていくものということです。豊かな都市の典型例として受け止められます。出雲市にあっては「演奏団体」が出雲フィルハーモニックであり、「育成団体」が出雲芸術アカデミーであることを説明し、日本に数例しかない取り組みを紹介しました。

その他、広報「オアシス」の発刊理由や講座内容、在籍数など資料を使って取り組み内容を説明しました。

せっかく本アカデミーに来訪されましたので、普段触れることの出来ないであろう弦楽器(バイオリン)の試奏を体験していただきました。本アカデミーのバイオリン指導者に立ち会っていただき、楽器の特徴から構え方、弓の持ち方を学び早速試奏です。本格的に学ぼうとするレッスンでは、ここまで数日要することもあります…。耳障りな音を連想していたにもかかわらず、なんと美しい音が奏でられるではありませんか…。中学生くらいになる

と体幹もしっかりしているので、安定感のある音が出るのだと納得した次第です。5人1組になり二つの音を交互に弾く中を指導者が有名なメロディ「エトピリカ」を奏するという演出で楽しいひと時を体験していただきました。

今回の訪問を受けて10年前に比べ学校教育が大きく変化していると思ったのは、メモや記録はすべてタブレットを駆使して行われていたことです。学校現場でもIT化が進んでいることを目の当たりにさせていただきました。「10年ひと昔」とよく言いますが、まさに時代の流れの速さに驚きを隠せない状況でした。

帰校されてからまとめの作業を開始されたと聞きました。どのようなプレゼンになるのか今から楽しみです。

## フォトギャラリー

◎斐川西中1年生による校外学習で本アカデミー訪問の様子です！

### ◆質問と回答



### ◆バイオリン体験

